

2019年第2四半期決算説明会における主な質疑応答

(2019年7月30日(火)、東京)

Q 1. 通期業績予想の修正理由を教えてください。

A 1. 売上高では下方修正の大半がガラスファイバの減少によるものです。その他では電子部品、太陽電池用基板、カバーガラス(化学強化専用ガラス)の減少も見込んでいます。下期の状況は、上期とさほど変わらない想定です。上期に韓国子会社の停電事故による特別損失を約10億円計上しました。下期には更に約30億円の特別損失を見込み、純利益を押し下げる要因になるものと見ています。

Q 2. ガラスファイバの地域別の出荷動向、収益性について教えてください。

A 2. 日本の出荷は規模的には大きくはありませんが、主に国内需要に対応し利益も上げています。マレーシアは、生産規模が大きく10数%の利益率を出していましたが、足元では稼働調整をしており利益率は少し落ちました。米国は、生産効率は上がってきていますが、稼働調整をしているため収益の回復は遅れています。当初、2019年度末には30億円程度の赤字に圧縮したいと考えていましたが、それを少し上回る赤字幅になりそうです。欧州は、オランダ・英国拠点とも厳しい状況です。

Q 3. ガラス繊維事業について、オランダの新設備の稼働はいつ頃になるか。

A 3. 市況が悪いため、本年度中の稼働は難しいと考えています。

Q 4. 本年度の設備投資額は減るのか。

A 4. ガラスファイバの設備投資の一部を延期したため、年間見込額を400億円から300億円に減額しています。

Q 5. ガラスファイバの需要回復はいつぐらいになるか。

A 5. 自動車市場の回復局面ではガラスファイバの需要も回復してくると思いますが、下期中の回復は見込んでおりません。緩やかに回復していくものと思われれます。

Q 6. ガラスファイバの四半期毎の動きを教えてください。

A 6. 第1四半期から第2四半期にかけて出荷は減少し、第2から第3にかけては横ばいで推移する見込みです。第3から第4は出荷が少し増える見込みです。

Q 7. 風車ブレード向けガラスファイバの市況はどうか。

A 7. 欧州で再生可能エネルギーの買取価格が下がってきていることもあり市況が低迷しています。ただし、今後、洋上風力発電用途の需要が増える見通しであり、これらに対応した高弾性率のガラスファイバの拡販に取り組んでいます。

Q 8. 在庫が増えていると思うが稼働調整をして在庫を減らしていかないのか。どの製品の在庫が増えているのか。

A 8. 在庫が増えたのはガラスファイバです。ガラスファイバは第 2 四半期から稼働調整を行っています。在庫は、マレーシアの高效率の設備で生産されコストの安いものも多く、需要回復につれて販売が進めば利益も出てくると見込んでいます。

Q 9. ガラスファイバについて、サプライチェーンの中で流通在庫が溜まっているということはあるか。

A 9. サプライチェーンが長いので実態を把握するのは困難です。

Q 10. ディスプレイ用ガラスの下期の数量動向を教えてください。

A 10. 第 3 四半期は第 2 四半期並みの出荷になると見込んでいますが、第 4 四半期は少し出荷は増えるものと見えています。

Q 11. ディスプレイ用ガラスの利益水準を教えてください。

A 11. 設備の長寿命化や生産性の改善の取り組みが奏功し、営業利益率では全社平均を上回る水準です。

Q 12. ディスプレイ用ガラスについて、第 10.5 世代のガラス基板の生産を行う予定はあるか。

A 12. お得意先の状況次第ですが、第 10.5 世代のガラス基板の生産技術は以前からっており、生産対応は可能です。

Q 13. エネルギーコストの動向はどうか。

A 13. 上期だけで前年比 15~16 億円程度のコスト増になりましたが、下期はさほどコストアップを見込んでおりません。

Q 14. 5 G 関連、次世代通信関連で将来、売上が伸びそうな製品は何か。

A 14. ガラス自体、5 G と親和性がある部材と考えています。現在、販売している部材も 5 G 関連で用いられるものがありますし、新製品の開発も進めています。ただ、5 G が本格化するのは 2、3 年後ではないかと考えています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。